

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年9月1日

120号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第十三回国際協力青年奉仕隊出発！



期待と夢を抱いて元気に出発！
二千年に手探りの中で始まつた第一回青年奉仕隊は、パラグアイの地を訪れて、オリンポ校設備（校庭周囲の塀、及びトイレ）建設などをの奉仕、文具の提供、スポーツや文化交流をし、そこで子供達と存分に触れ合つた経験に、お互いが深い感謝と喜びを覚えました。
その後、まだ開拓の香りが十分残つていたレダに到着し、パンタナールの自然に開放感を味わいました。
レダは公館や修練所も建設中であり、浄水場も未完成の、開拓一年の頃です。レダが最軍初年に建てる完成した建物は、国に献納した海警備所でした。このように青年奉仕隊は、自分たちの基盤が整つてからの出発ではなく、開拓当初から常にパラグアイの為に貢献しこの国の発展を願つての歩みでした。
この以来毎年続けてきた青年奉仕隊は、二〇〇七年から、植樹活動も着手し、チヤコ地方、東七つの都市部に、毎年五〇校を選んで、市と地生徒が、青年奉仕隊と一緒に活動となつて活動し、国家的影響を与える程になつています。
柴沼今年は十二名の一歩を率いて、八月二六日、事務局長が成田を出発しました。
今年は、加わる地では更に日本人一名、ブラジル人五名で、学校校舎修理、内陸部の貧しいトロパン文化交流などを行ないます。
村は現地であります。今回はインディヘル人五名の成田植樹活動修理工事の提供、学校校舎修理、内陸部の貧しいトロパン文化交流などを行ないます。
田は感謝申し上げながら、九月十日が日であります。成田着は、成田を出発しました。
(飯野記)



レダで活動した2人の青年帰国

2カ月半、レダで活躍した三青年の内、下條君と山口さんが帰国することになりました。世界自然遺産であるイグアスの滝などを見学し、8月14日成田に着きました。彼らは短い滞在期間にもかかわらず、燻製器を作り、豚や魚の燻製にもチャレンジ、ソーセージや蚊取り線香も成功しました。ほかしの肥料を作ったり、農作物の実験など様々なことにも取り組み、充実した日々を過ごせたことを感謝していました。

写真上：収穫のヤムイモを手に山口さん

写真右：歓送のケーキに思わず感謝、左から下條君、山口さん

ディアナ村に机・椅子50セット贈呈

8月19日、ディアナの学校に椅子付き机50セットを贈呈しました。レダで製作され、綺麗にニスを塗って仕上げました（写真左下）。佐野氏が贈呈式に立会い、校長から感謝状を受け取りました。（写真右）子供達も早速、輸送船から教室に運ばれた新しい椅子にすわり、大喜びでした。（写真右下）

「アメリカでも黒人大統領が誕生したのだから、この先住民の村からも大統領が出るよう熱心に勉強して頑張ろう。」と佐野氏は挨拶しました。



佐野氏とディアナ小学校の校長先生、しっかりと握手





「地球の緑を守る会」が「南北米福地開発協会」と協力して国内外に植樹活動を始めてから十三年目を迎えました。

CO₂の吸収源である森林破壊とそれに伴う地球温暖化の悪循環が今も早いスピードで進行しています。

二〇年前、リオで開催された

「地球環境サミット」でその危機が呼ばれた「グローバル・ウォーミング」の訳語が「地球温暖化」となったわけです。しかし現実はそんな生やさしいことではなく、むしろ「地球熱帯化」と表現した方が正しいのです。

今年の日本列島は、かつて経験したことのない」という形容詞が頻繁に使われるほど記録的な異常気象に見舞われました。誰もが危機を体感したこの機会に、植樹の大切さを繰り返し述べたいと思います。

幅1mの土地があれば誰でも、市民のいのちを守る防災環境保全林をつくれます。皆さんのがぞれの立場で可能な限り実践していただきたいのです。

その際、「木を植えたい」とお願いするではなく、「そこに住む人々が心身ともに健康に生きていくため、また、災害を未然に防ぐため、木を植える必要があるのです！」と得してほしいのです。そして、「木を植えることは子供たちの未来につながるもののです！」と付け加えてください。

この地球上では、「生産者」は動物ではなく植物です。私たち人間を含めた動物は植物の「寄生者」の立場でしか持続的には生きていけません。科学的知見に基づいたこの冷厳な事実を私たちは正しく理解すべきだと思います。

一八九五年、イギリスで森や古い家屋や集落が失われていくのに対し、弁護士、婦人社会活動家、牧師をしていた三人の市民がその保護を提唱しました。これが「ナショナルトラスト運動」（自然環境や歴史的環境の保護を目的とした発足した民間組織）の発端となりました。

百年たった今、私たちはかつてない環境危機に直面しています。自分のいのち、愛する人のいのちを人まかせにすることはできません。市民一人一人が行動する時です。市民が動けば行政が動きます。市民と行政が動けば企業が動きます。

たとえば、東北地方沿岸を襲ったあの三・十一の被災者の苦しみを慰め、同情するだけでは街の復興は不可能です。震災直後、宮脇昭博士が政府に緊急提言した復興の秘策、「大津波を防ぐ森の防潮堤づくり」に共鳴した私たちは、今年の五月、岩手県大槌町での植樹会に弓の立場で参加し五千本の苗木を植えました。この苗が十十五年経てば津波を防ぐ生きた緑の壁となつて防災の機能を發揮してくれるのです。

このように森をつくるにあたっては、場所を提供する人、計画する人、実際に植える人、将来その樹林と共生していく人々、こうしたすべての人々がその目的と意義を理解する必要があります。その価値を共有できれば森づくりは必ず成功します。

弓の地球の緑を守る会は、二〇〇一年、パラグアイのチャコ地方の荒れ地に植樹を開始したのが活動の始まりです。その際、南北米福地開発協会の現地法人（南北米福地開発協会）の協力を得て、苗木の調達、その後の育苗所の開設、（次ページに）

(前ページから)

市街地の街路樹の造成、インディオの村での植樹の指導など、数多くの実践を継続することができました。

この十数年を振り返り、小規模な植樹活動ではありましたが、タイミングという観点から、森林減少による国土の荒廃に苦しんでいたパラグアイの国情に叶つたものであったと思います。

今後もこうした小さな実践が現地当局や市民レベルにも浸透し、木を植えることがパラグアイの人々の生活文化として根づくことを期待しています。



第13回国際協力青年奉仕隊のため、多くの方々からの支援を心から感謝します。



日本各地にて青年奉仕隊を支援する集会が開催されました。

会員の方から『レダの開発やパク放流、ニームの大木に育つた森のニュースを拝見して、皆様の精誠にこころより感動し、感謝申し上げています。未使用の切手がお役に立つと感じます。青年奉仕隊の成功を祈念しています。』

『第九回青年奉仕隊に参加させていただきました。今回、高校生が周りに呼びかけて未使用のはがきを集めてくれました。数は少ないのですが、受け取つていいだけたらと思います。』

南北米福地開発協会事務局

〒213-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話 044-829-2821
Fax 044-829-2820

会費納入 郵便口座
10180-77680471

E-MAIL : office@asd-nsa.jp
ホームページ : <http://www.asd-nsa.jp>

地球家族として 自然を守りましょう

南北米福地開発協会

会員の募集中

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーナラびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

各種のセミナー、エコツアーラ等の案内をいたします。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。